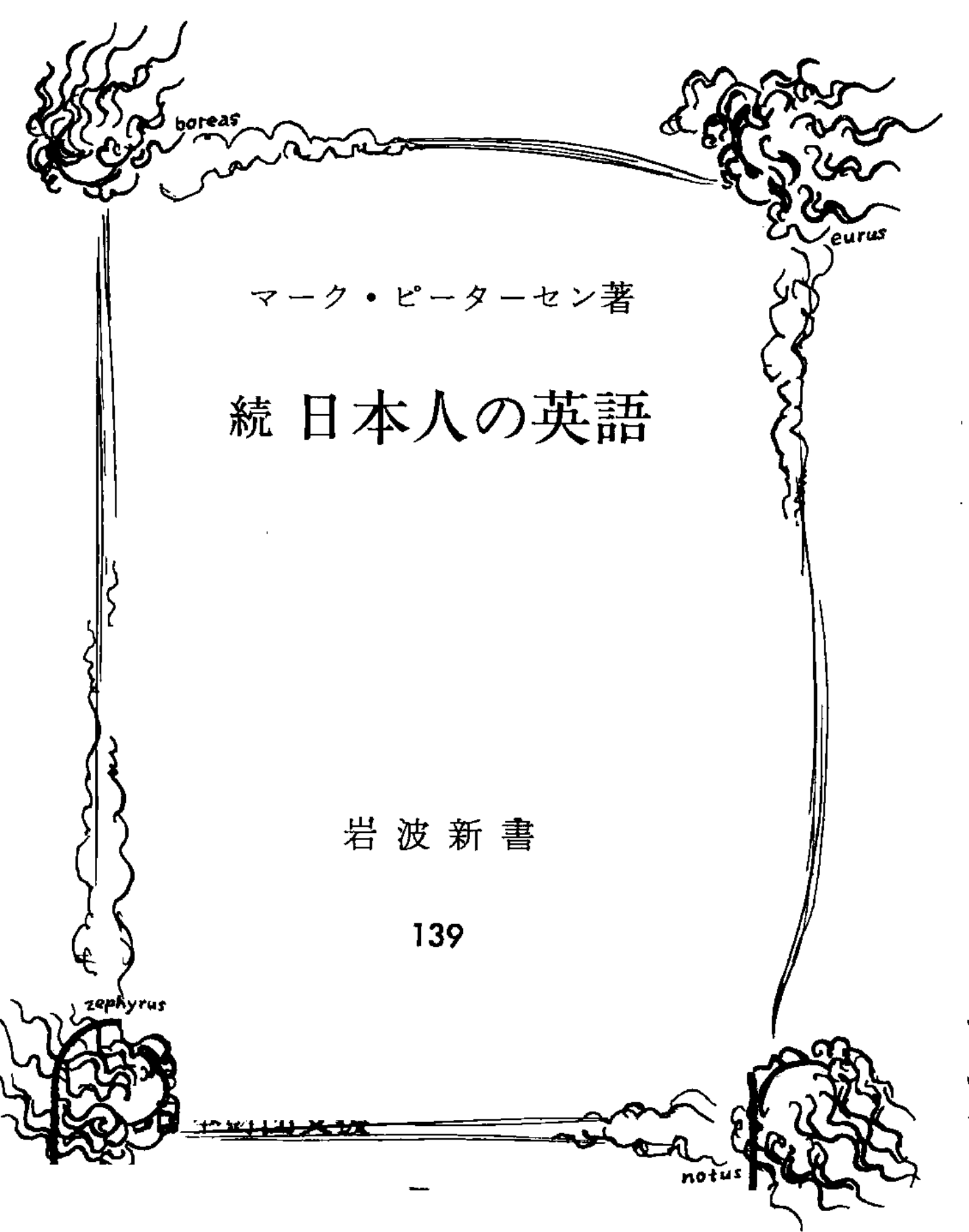


マーク・ピーターセン著

続日本人の英語





マーク・ピーターセン著

続 日本人の英語

岩波新書

139

マーク・ピーターセン (Mark Petersen)

アメリカのウィスコンシン州出身。コロラド大学で英米文学，ワシントン大学大学院で近代日本文学を専攻。1980年フルブライト留学生として来日，東京工業大学にて「正宗白鳥」を研究。

現在一明治大学政治経済学部助教授

著書一「日本人の英語」(岩波新書)

続 日本人の英語

岩波新書(新赤版) 139

1990年9月20日 第1刷発行 ©

著 者 マーク・ピーターセン

発 行 者 安 江 良 介

〒101-02 東京都千代田区一ツ橋 2-5-5
発 行 所 株式会社 岩 波 書 店
電話 03-265-4111

定価はカバーに表示してあります

印刷・精興社
製本・永井製本

落丁本・乱丁本はお取替いたします

Printed in Japan
ISBN 4-00-430139-4

That which anyone has long been learning unwillingly, he
*un*learns with proportionable eagerness and haste.

—William Hazlitt—

いやいやながら学んできた事柄は、それ相応に忘れるのも早く、
頭にも残らない。

—ウィリアム・ハズリット—

Words have weight, sound, and appearance ; it is only by
considering these that you can write a sentence that is good to
look at and good to listen to.

—W. Sommerset Maugham—

なべて言葉は、重みと、響きと、形態を備えている。それを斟酌して初めて、見栄えのする、響きのよい文章を書くことができるのだ。

—W. サマセット・モーム—

長崎より西洋婦人^{あまた}夥多乗り込む。……

かばんの中に『几^{きとうしゅう}董集』と『召^{しょうはしゅう}波集』があったから少し読もう
と思うたが読めぬ。周囲が西洋人くさくて到底俳句など味う余地
はない。芳賀は『詩韻含英』などをひねくっているが、これも何
も出来ぬらしい。俳句も一、二句は作って見たいが一向出て来な
い。恐れ入ってしまった。

—『漱石日記』(岩波文庫)より—

目 次

I	小指に結んだ赤い糸	1
1	スペインの雨——定冠詞 the	13
2	七人の侍——可算名詞と不可算名詞	24
II	ここはカンザスじゃないみたいよ	35
1	あの人を忘れない——単数形と複数形	46
2	ペンは剣よりも強し——名詞の一般用法	62
III	花椿と赤いねこ車	73
1	橋の下よりほととぎす——前置詞	79
2	大和言葉のやわらかさ——副詞	89
IV	ぼつぼつ寝ませんか	101
1	金が物を言う——現在形	113
2	遅れることになったら電話する ——未来形	123
V	心の揺れから生まれる言葉	131
1	耳を貸そうとしない——知覚動詞	141
2	窓ぎわのテーブルにしてもらう ——使役動詞	151

VI	ことばの情景	159
1	川端康成『山の音』	159
2	J. D. サリンジャー： <i>A Perfect Day for Bananafish</i>	169
3	日本人の英語	177
	あとがき	183

I 小指に結んだ赤い糸

「可愛い」という価値観

「悔しい」や「偉い」、「可愛い」、「優しい」などの、どう考えても一つの形容詞として英語の表現にならない日本語が私は好きである。ある程度決まった概念や価値観がこの類の日本語を支える表現の前提となっているが、英語では、そういう概念や価値観は、別に決まっているわけではないのである。そういった日本語の一つを覚えたと思うと、子供が新しい玩具をもらったような気分で、私はすぐにでも使ってみたくなる。自然に使う機会がなくても、機会を無理に作ろうとする。せっかちは、言語学習にもよくないが、日本人が頻繁に使うごく普通の表現でも、基本的につまらない表現でも、たとえば「あの人はね、ちっとも偉くないよ」などのような表現でも、私にとってはまったく新鮮な感覚である。英語にない表現だから、初めて聞くと、つい嬉しくなってしまう。それは多分、英語の感覚ではとても思いつかないような言い方を初めて「知った」ということだけで、小さな刺激が生まれて、その刺激が心のどこかに嬉しく感じられるので、無理にでも使ってみたくなるのであろう。

無論のこと、アメリカ人でも、「優しい」人もいれば、

「可愛い」人もいる。また、「ちっとも偉くない」のに周りから媚びへつらわれるアメリカ人もいれば、それを見て、大変に「悔しく」思うアメリカ人もいる。ただ、残念なことに、それぞれの日本語に当てはまるような英語がなく、たびたび不便に思う。

「えらい、えらい」

伊丹十三の傑作映画『タンポポ』には、次の場面がある。さびれたラーメン屋を町一番の店に作り直そうと一所懸命頑張っているタンポポ(宮本信子)と、彼女に惚れて「ラーメン道の先生」をやっているゴロー(山崎努)が、初めてのデートに出かけた場面で、二人はすごくおいしそうな骨付きのカルビを焼きながら、次の会話をする。

タンポポ「ねえ、あたしよくやってる？」

ゴロー「よくやってるよ」

タンポポ「えらい？」

ゴロー「えらい、えらい」

宮本信子のこの台詞のイントネーションはとても可愛い。山崎努のイントネーションは、男らしく優しい。この場面はタンポポのラーメン修業が一段落ついたところで、彼女には甘えてみたい気持ちがある。誉められてみたい。未亡人の彼女がそこで自分のことを「えらい？」と素直に、子供のように訊くと、とても可愛く感じられる。



『タンポポ』(1987年)より

しかし、それを感じても、私は、その「えらい？」を英語に訳せと言われたら困る。長い文章で説明するのなら、ある程度できるつもりであるが、一つの台詞として同じようなことを表現するのは、私には無理である。アメリカで販売されている『タンポポ』のビデオの英語字幕スーパーでは、この会話は次のようになっている。

Tampopo : Am I trying hard enough ?

Goro : Sure you are.

Tampopo : Am I good ?

Goro : Sure.

この英語は、表面的には似たような内容の話にはなっているが、感覚的に言えば、ドライで、機械的な会話で

ある。日本語のオリジナルに比べたら、情けない英語である。言うまでもなく、可愛さはこの英語のどこにもない。日本語で言えば、

タンポポ「私は十分に頑張っている？」

ゴロー「それはそうだよ」

タンポポ「私には才能があると思う？」

ゴロー「思う」

というような感じである。

「えらい？」というくらいの簡単な表現が、なぜ素直に英語で言えないのだろう。その日本語の前提となる日本人同士の価値観を考えてみたら、なぜかが分かると思う。これは「えらい」だけではなく、上述の「悔しい」や「可愛い」、「優しい」などの表現も同じである。しかも、この類の言葉は、人間関係を日本語で表現するのに、なくてはならない言葉であるので、私にとってどうしてもじっくり考える必要がある。

「偉い」と言える前提

「偉い」という言葉には、さまざまな意味があるようであるが、日本人同士の会話で、相手がどの意味で言っているか問題となるケースはまずないと思う。標準語でもっとも頻繁に使われている「えらい」を大まかに分けたら、『広辞苑』の最初の三つの定義になるであろう。

(1)「すぐれている。人に尊敬されるべき立場にある。

(えらい人)」

(2)「普通あるべき状態より程度が甚だしい。ひどい。

(えらい騒ぎ)」

(3)「思いもかけない。とんでもない。(えらいところで会ったね)」

タンポポのような女性が男性に「あたし、えらい？」というようなことを訊く場合、この中では、(1)の意味に決まっているが、(1)でも、ちょっと違うのではないだろうか。もしタンポポが自分のことを「すぐれている？」と訊けば、大分ニュアンスが変わるだろう(ちなみに、「すぐれていて」も、全然偉くならない人もいようである)。それから、「人に尊敬されるべき立場にある」という「立場」のことであるが、たとえば、政界でかなり偉くなった人でも、別れた妻からは「あの人は、ちっともえらくないよ」といわれてしまうケースもあるように、同じ「えらい」とはいっても、立場と本質とは違う。

言うまでもなく、タンポポが訊いているのは、自分がすぐれているかどうかというのでもなければ、自分が人に尊敬されるべき立場にある「偉い人」であるかどうかというのでもない。ただ、気持ちの面で、ゴローが自分のことを「えらい」と思っているかどうかということを訊いているだけである。

ゴローは「えらい、えらい」と答える。二人の間には、いかに頑張れば「えらい」と言えるかを、別段考える必

要はあるまい。日本人なら、一応そういうえらい「頑張りぶり」の前提があるのであろう。転んでも泣かなければ、親に「えらい、えらい」と誉めてもらえることは、日本では小さい子供にでもすぐに分かる。しかし、外国語として日本語を理解しようとする人間にとっては、いくら和英大辞典で「えらい (great, grand, famous, illustrious, wonderful, extraordinary, phenomenal, etc.)」という言葉調べても、その言葉が、まさか「転んでも泣かなければ、えらい」というふうに使える言葉とは思えないのである。日本で暮らしたことがなければ、映画の『タンポポ』で、彼女がどういうつもりで自分のことを「えらい？」と訊いたのか、理解するのは難しいだろう。日本人が実際に日常生活にその言葉をどう使っているかを体験し、実感してから初めて理解できるようになる。そういう表現が実に多い。

さまざまな「悔しさ」

受験生に訊けば、「優しい」といえば“gentle”，「可愛い」といえば“cute”か“pretty”，それから「偉い」といえば，“great”である。このように英語の受験勉強はエライ誤解を招いている。が、善かれ悪しかれ「悔しい」という日本語については、おそらくほとんどの受験生は、教わったことも考えたこともないだろう。一方、私は逆の立場にいて、アメリカで日本語を勉強しているとき

「悔しい」という言葉にはいつも出会っていたが、私は、その意味をどうしてもつかみかねていた。和英大辞典から理解しようとする、「悔しい」といえば、まず“vexatious”(苛立たしい)と“mortifying”(屈辱を感じている)と“regrettable”(残念な)と、ずいぶん異なる三つのチョイスが出てくるが、どれも私の勉強している和文の中の「悔しい」と似合っているとは思えない場合の方が多かった。

日本人が実際に日常生活に使っている「悔しい」にしてもそうである。たとえば、ホーム・ステイ先のアメリカ人の息子が、アメリカでわずか1年くらい日本語を勉強しただけで堂々と日本語を喋っているのに、はるかに長い間英語を勉強した自分の口からはなかなか英語が出ないという「悔しい」気持ちもある。あるいは、もっと真剣な場合、たとえば、5年間も同棲して自分のすべてを尽くしてきたのに、いきなりその相手が今度、別の人と見合い結婚する、というようなときの本格的な「悔しさ」もある。また、小さい子供に「えらい、えらい」と優しく言ってきたお母さんが、今度その子が小学五年生になって50点の漢字テストをもって帰った場合、「悔しくないの」と、大きな声で残酷に責めるかもしれない。同じ「悔しい」という一つの日本語に、これほどの使い方があるとは、英語の vexatious, mortifying, regrettable などの観点からはとても想像もつかない。

かといって、英語圏の人間は悔しがらないわけではない。『マイ・フェア・レディ』のイライザが舞踏会で大成功して帰ってきたところ、誰も「よくやった」の一言もかけてくれないし、誰も自分の苦勞とその「えらさ」を認めてくれない。無視されるだけである。家の人たちは皆、ヒギンズ教授のことばかり構っていて、彼を“**You Did It!**”という歌で賛美する。その直後、イライザが一人で部屋に残され、悔しくてたまらず泣き崩れてしまう。映画『マイ・フェア・レディ』のその場面では、イライザ(オードリー・ヘップバーン)は椅子に突っふして、細くて壊れそうな手で肘掛けをドンと叩く。この瞬間、彼女の悔しさは誰にでも伝わるであろう。

そのときのイライザの気持ちを、英語でどう表現すればよいであろう。日本語ならば「悔しい」という一語で完璧に済むが、英語では、まず“**a certain mixture of anger and frustration and bitter resentment(over a perceived injustice to oneself)**”というようなことから説明しようとするしかない。これは、アメリカ人として、少し悔しいと思うけれども、仕方がない。

小指に結んだ赤い糸

“**You Were Meant for Me**”という大変ロマンティックな歌がある。ミュージカル映画『雨に唄えば』で、ジーン・ケリーがデビー・レイノルズにこの歌を歌う。私



『雨に唄えば』(1952年)より

は、日本語字幕スーパーのついたその場面を見るまでは、英語の“meant”の不思議な使い方を考えたことはなかったが、実に英語らしい使い方である。

『雨に唄えば』を授業で一緒に観た某女子大学英文科の四年生二人に、実験的に *you were meant for me* という文を和訳してもらった。その結果は、

- (1) 君は僕のために生まれてきたんだ。
- (2) あなたは私と出会うために現われた。

の二つであった。いずれも、実際問題として、日本の男性が真面目な顔をして言えるような台詞ではなさそうだが、英語の原文は、むしろあっさりした言い方で、和訳に比べたら、はるかに口にしやすい。この歌は全体とし

て素朴で、はじめの方に

“You were meant for me,
and I was meant for you.”

というのがある。字幕スーパーは、それを和風に変えて、
「ふたりは結ばれていた、小指を赤い糸で」

とする。確かに、“meant for”は、前から縁があったという意味である。どこの国の人間でも好きな人と縁があると思いたい。あると思えたら、嬉しい。好きな人に「ある」と言われたら、もっと嬉しい。だから言葉は大切だと思う。実際、いきなり「君は僕のために生まれてきたんだ」と言われたら、好きではなくなるかもしれない。

隠れた主語は「神」

“were meant for”という英語は、受動態である。ということは、能動態の“meant for”(mean for の過去形)もあるはずである。それに、その主語もどこかにあるはずである。つまり、

Who meant you for me?

という問題になる。この場合、meanは「何かのつもりで何かをする」ということである。たとえば、普通の英会話で、

Here, I meant this for you.

と言え、相手にあげるつもりで買ってきたという意味で「どうぞ、お宅にさしあげたいと思って」というよう

な日本語の感じに近いであろう。“mean”の受動態の多くの場合、その「つもり」をもつ、背景にある主語は「運命」、あるいは、もっと厳密に言えば「造物主」である。「神」である。神や運命を信じない人でも平気でその表現を使うということも面白い。恋人に「別れるしかない」と諦めさせようとして、

I guess it just wasn't meant to be.(まあ、もともと縁がなかったんだろう。)

という表現も耳にする。

ところで、『雨に唄えば』の“You Were Meant for Me”の主語は、歌の最後の方にはっきりしてくる。ジーン・ケリーは、目線を空の方に上げながら、

“the *angels* must have sent you, and they meant you just for me.”

と歌う。こんなお目出たい台詞で口説くなんて信じがたいが、歌だから許してあげよう。

訳しすぎの例

英語を日本語に直す場合、日本の典型的な考え方や感覚にどの程度まで合わせたらよいかは、実に難しい問題である。上述の you were meant for me に対する「ふたりは結ばれていた、小指を赤い糸で」は大体その限度に近いと思う。

ミュージカル映画『キャバレー』にある “Maybe This